

Bondesil Carbon, Bond Elut Carbon Bulk

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: Bondesil Carbon, Bond Elut Carbon Bulk
部品番号	: 6410G, 64100G
供給者/ 製造者	: 会社名 アジレント・テクノロジー株式会社
	住所 〒192-8510 東京都八王子市高倉町9-1
	電話番号 +81-42-660-3111
緊急連絡電話番号(受付時間)	: CHEMTREC®: 0800-300-5842
化学製品の推奨される用途	: 分析化学研究所用の試薬および基準 6410G - 10g 64100G - 100g
使用上の制限	: 情報なし。

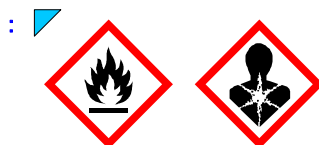
2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類

H251	自己発熱性化学品 - 区分1
H351	発がん性 - 区分2
H372	特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分1
H412	水生環境有害性 長期(慢性) - 区分3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: H251 - 自己発熱: 火災のおそれ
H351 - 発がんのおそれの疑い
H372 - 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器)
H412 - 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

: P201 - 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P280 - 保護手袋, 保護衣及び保護眼鏡又は保護面を着用すること。
P235 - 涼しいところに置くこと。
P273 - 環境への放出を避けること。
P260 - 粉じんを吸入しないこと。
P270 - この製品を使用するときに, 飲食又は喫煙をしないこと。
P264 - 取扱い後はよく洗うこと。

応急措置

保管

: P308 + P313 - ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察又は手当てを受けること。
P405 - 施錠して保管すること。
P410 - 日光から遮断すること。
P413 - 0.1kg/0.22lbs 以上の大量品は, 315°C/599°F 以下の温度で保管すること。
P407 - 積荷又はパレット間に隙間をあけること。
P420 - 隔離して保管すること。

廃棄

: P501 - 内容物及び容器を市町村条例、都道府県条例、国内法令及び国際条約の規定に従って廃棄すること。

その他の危険有害性

: 分散すると、粉塵と空気との爆発性混合物を形成する可能性がある。

3. 組成及び成分情報

化学物質 混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	含有量(%)	識別子	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
カーボンブラック	100	CAS: 1333-86-4	5-3328; 5-5222	(5)-3328; (5)-5222

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼と水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口を洗浄する。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。医師の診断を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

予想される急性健康影響

- 吸入した場合 : 規制の又は勧告されている暴露限界濃度を超える空気浮遊物質に曝露すると、鼻、のど及び肺に炎症を引き起こす原因となる可能性がある。
- 眼に入った場合 : 規制の又は勧告されている暴露限界濃度を超える空気浮遊物質に曝露すると、目に炎症を引き起こす原因となる可能性がある。

過剰にばく露した場合の徴候症状

- 吸入した場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
気道刺激性
咳
- 眼に入った場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
刺激
充血

- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
- 医師に対する特別な注意事項 : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉滅Dの認定消火剤を使用するか、乾燥した砂、土、石灰石で火を覆い消火する。
- 使ってはならない消火剤 : 粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性がある高圧媒体を避けること。
- 火災時の特有の危険有害性 : 可燃性固体 流出物が下水道に流れ込むと、火災や爆発を引き起こす危険性がある。自己発熱性物質。引火のおそれあり。水と接触すると水素を生成する。分散すると、粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性がある。本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
- 有害な熱分解生成物 : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある:
二酸化炭素
一酸化炭素
金属酸化物
- 特有の消火方法 : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。
- 備考 : この物質は、粉末状の場合のみ可燃性です。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 非緊急時対応要員について** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。粉塵の吸入を避ける。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報を注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

- 環境に対する注意事項** : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

- 封じ込め及び浄化の方法及び機材** : 漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

- 安全取扱注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。暴露を避けること一使用前に取扱説明書入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。粉塵の吸入を避ける。環境への放出を避けること。取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて(火花または火炎)を避ける。粉塵の貯留を防止する。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。十分な換気がない限り、保管場所および密閉された空間に入らないこと。電気機器および照明器具は、熱せられた表面、火花、その他の引火源に粉塵が接触しないよう、適切な基準に合わせて防護されていなければならない。火花を発生させない工具を使用すること。静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。
- 衛生対策** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業中は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

保管

安全な保管条件

- : 現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。0.1kg/0.22lbs以上の大量品は、315°C/599°F以下の温度で保管すること。施錠して保管すること。あらゆる発火源を除去する。酸性物質に近づけない。水または湿気から遠ざけること。酸又はアルカリから遠ざけること。他の物質から離して保管すること。積荷/パレット間に隙間をあけること。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用の前にセクション10を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- : 換気が十分な場所でのみ使用する。この製品に関連する一次的あるいは二次的リスクを管理するために、技術的な管理対策が必要になる可能性がある。工程の密閉化、局所排気装置の使用あるいはその他の技術的対策により、空気中の汚染物質に対する労働者のばく露を、すべての推奨又は法定ばく露限界値以下に保つ。防爆型換気装置を使用する。

ばく露限界

化学名又は一般名	ばく露限界値
ブーボンブラック	日本産業衛生学会(日本, 5/2023) 発がん性 2B. 健康障害の防止のための濃度基準適用等技術指針(日本, 6/2024) 八時間濃度基準値 8時間: 0.3 mg/m ³ . 形: レスピラブル粒子として.

生物学的曝露指数

曝露指数は不明です。

8. ばく露防止及び保護措置

- 衛生対策** : 該当しない。
- 保護具**
- 呼吸用保護具** : 危険性とばく露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。
- 手の保護具** : スク評価によって必要とされる場合は、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。
- 眼、顔面の保護具** : リスクアセスメントの結果、必要とされた場合は、液体飛まつ、ミスト、ガスあるいは粉じんへのばく露をさけるため、承認基準に適合する安全眼鏡を着用すること。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 側方シールド付の保護眼鏡。作業条件により高濃度の粉塵が発生する場合は、粉塵用ゴーグルを着用する。
- 皮膚及び身体の保護具** : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。
この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

特に明記されていない限り、性質の測定条件はすべて、標準の温度と圧力である。

- 物理状態** : 固体 [粉末。]
- 色** : 黒。 / 灰色。
- 臭い** : 無臭。
- 融点／凝固点** : 情報なし。
- 沸点又は初留点及び沸点範囲** : 情報なし。
- 可燃性** : 次の物質および条件の存在下で引火性: 裸火、火花、および放電 および heat。
次の物質および条件の存在下でわずかに引火性: 酸化性物質。
この物質は、粉末状の場合のみ可燃性です。
- 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界** : 該当しない
- 引火点** : 密閉式: >500°C (>932°F)
- 自然発火点** : >315°C (>599°F)
- 分解温度** : >3650°C (>6602°F)
- pH** : 情報なし。
- 粘度** : 動的 (室温): 情報なし。
動粘性率 (室温): 情報なし。
動粘性率 (40°C (104°F)): 情報なし。
- 溶解度** :
- | メディア | 結果 |
|------|-----|
| 水 | 不溶性 |
- 水への溶解度** : <0.001 g/l
- n-オクタノール／水分配係数** : 情報なし。
- 蒸気圧** : 情報なし。
- 密度及び又は相対密度** : 1.7 から 1.9 g/cm³ [20°C (68°F)]
- 相対ガス密度** : 1.7 から 1.9
- 粒子特性**
- 中央粒径値** : 情報なし。
- その他のデータ**
- 臭いのしきい値** : 情報なし。
- 蒸発速度** : 情報なし。

10. 安定性及び反応性

- 反応性** : この製品は、エネルギー供給が無い空気との反応により、自己発熱し、大量の場合や長期間の反応後には発火する傾向がある。体積450リットルの自然発火温度は $\leq 50^{\circ}\text{C}$ である。
- 化学的安定性** : 製品は安定である。
- 危険有害反応可能性** : 特定の貯蔵または使用条件において危険有害性反応または不安定性を生じることがある。条件には次のものを含む場合がある:
バルク保管中における空気との長時間の接触
反応には次のものを含む場合がある:
火災を引き起こすリスク
自然発火性
- 避けるべき条件** : 取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて(火花または火炎)を避ける。静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。粉塵の貯留を防止する。
- 混触危険物質** : 水の物質と反応性あるいは危険配合性:
強酸
強アルカリ
酸化性物質
水
- 危険有害な分解生成物** : 水と接触すると水素を生成する。

11. 有害性情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	
カーボンブラック	ラット - 経口 - LD50	>15400 mg/kg

急性毒性の推定

N/A

結論/要約[製品] : 情報なし。

皮膚腐食性/刺激性

結論/要約[製品] : 情報なし。

深刻な眼の損傷/眼の炎症

結論/要約[製品] : 情報なし。

呼吸器の腐食/刺激

結論/要約[製品] : 情報なし。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚

結論/要約[製品] : 情報なし。

呼吸器系

結論/要約[製品] : 情報なし。

生殖細胞の変異原性

結論/要約[製品] : 情報なし。

発がん性

結論/要約[製品] : 動物実験によると、がんを引き起こすことがある。(粉塵)

生殖毒性

結論/要約[製品] : 情報なし。

特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)

情報なし。

特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)

11. 有害性情報

製品 / 成分の名称 **結果**
P-ボンブラック 特定標的臓器毒性(反復ばく露)(呼吸器) - 区分1

誤えん有害性

情報なし。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品 / 成分の名称 **結果**
P-ボンブラック 急性 - EC50 - 淡水 37.563 mg/l [48 時間] ミジンコ類 - Water flea - Daphnia magna - 新生児
急性 - EC50 - 淡水 >10000 mg/l [72 時間] 藻類
急性 - NOEC - 淡水 >10000 mg/l [72 時間] 藻類

結論/要約[製品] : 情報なし。

残留性・分解性

結論/要約[製品] : 情報なし。

生体蓄積性

情報なし。

土壌中の移動性

: 情報なし。

オゾン層への有害性

: 該当しない

他の有害影響

: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14. 輸送上の注意

UN / IMDG / IATA : 規定なし。

使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

IMO機器によるばら積み運搬 : 情報なし。

15. 適用法令

消防法

カテゴリー	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
指定可燃物	可燃性固体類	情報なし。	火気注意	10000 kg

消防活動阻害物質 : 非該当

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物

15. 適用法令

化学名又は一般名	含有量(%)	状況	整理番号
カーボンブラック	100	該当	130, 2-403 (2025-04)

名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	含有量(%)	状況	整理番号
カーボンブラック	100	該当	130, 2-403 (2025-04)

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質 (労働安全衛生規則 第594条の2 第1項)

非該当

化学物質審査規制法

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

日本産業衛生学会 発がん性物質 : 第2群B

インベントリリスト

- 日本 : 日本インベントリー(化審法既存及び新規公示化学物質): 当物質は記載されているかあるいは免除されている。
日本インベントリー(ISHL): 当物質は記載されているかあるいは免除されている。
- 米国 : の材料はアクティブか、または免除されます。

16. その他の情報

履歴

発行日/改訂版の日付 : 2024/12/20

前作成日 : 2022/02/01

バージョン : 6

略語の解説

- ATE = 急性毒性推定値
BCF = 生物濃縮係数
GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム
IATA = 国際航空運送協会
IBC = 中型運搬容器
IMDG = 国際海上危険物
LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数
MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。("Marpol" = 海洋汚染)
N/A = データなし
UN = 国際連合

分類を行うために使用する手順

分類	由来
<input checked="" type="checkbox"/> 自己発熱性化学品 - 区分1 <input checked="" type="checkbox"/> 発がん性 - 区分2 <input checked="" type="checkbox"/> 特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分1 <input checked="" type="checkbox"/> 水生環境有害性 長期(慢性) - 区分3	規制データ 規制データ 規制データ 試験データに基づく

参照 : 情報なし。

 前バージョンから変更された情報を指摘する。

注意事項

16. その他の情報

使用者への注意: このデータシートは作成時における最新情報に基づいて作成されています。しかしながら記載されている内容は情報提供であり、その正確性あるいは完全性に関していかなる保証をなすものではありません。